海のゆりかご通信

≈ Vol. 045 ≈

素潜りでアラメを刈り取る様子

～水産多面的機能発揮対策事業とは？～

水産業・漁村の役割には、新鮮で安全な魚介類を皆さんの食卓に届けることの他、海の安全を監視し、森・川・海の環境を保全し、地域に伝わる漁村の文化を継承するなどの様々な役割があります。このような様々な役割を発揮するための活動に取り組む漁師や市民のみなさんのグループを支援するための事業が、水産多面的機能発揮対策事業です。

～海のゆりかご通信とは？～

海のゆりかご通信では、水産多面的機能発揮対策事業に取り組む全国の活動グループの活動を紹介するとともに、JF 全漁連・全内漁連によるサポート情報をお届けします。

今月の活動リポート

活動組織名 ▶ 御宿地区環境保全活動グループ・岩和田地区環境保全活動グループ

場　　所 ▶ 千葉県夷隅郡御宿町

主な活動内容 ▶ 藻場の保全

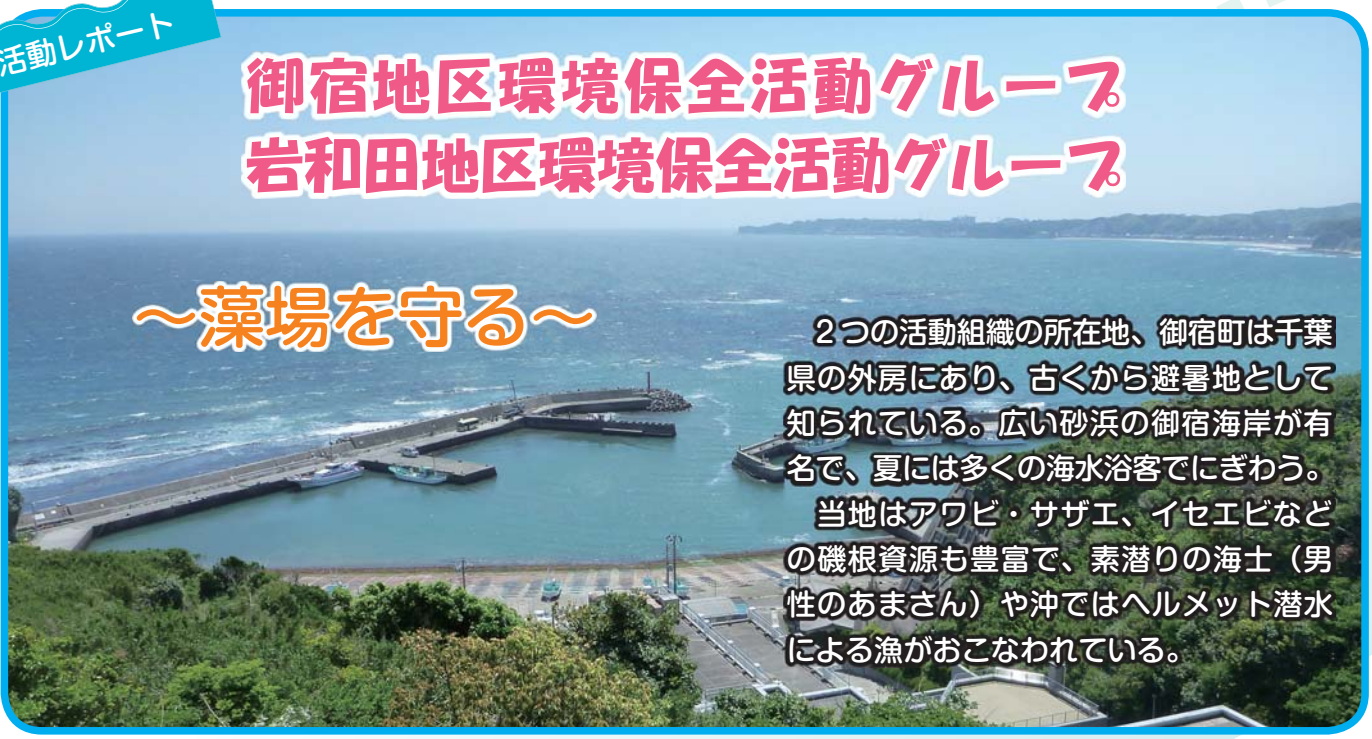
構　成

漁業者
御宿岩和田漁協
など

活動レポート

御宿地区環境保全活動グループ
岩和田地区環境保全活動グループ

～藻場を守る～



２つの活動組織の所在地、御宿町は千葉県の外房にあり、古くから避暑地として知られている。広い砂浜の御宿海岸が有名で、夏には多くの海水浴客でにぎわう。

当地はアワビ・サザエ、イセエビなどの磯根資源も豊富で、素潜りの海士（男性のあまさん）や沖ではヘルメット潜水による漁がおこなわれている。

御宿地区環境保全活動グループと岩和田地区環境保全活動グループ

御宿海岸の広い砂浜の両側は岩礁地帯で、北側に岩和田漁港、南側に御宿漁港がある。両活動グループはそれぞれの地区の漁業者を中心に、「藻場の保全」を目的として 2014 年度に立ち上げられた活動組織である。御宿地区は式田善一代表以下、漁業者 20 名、漁業者以外 16 名、また岩和田地区は畑中英男代表以下、漁業者 21 名、漁業者以外 10 名で構成されている。保全活動項目はいずれも「保護区の設定」と「浮遊・堆積物の除去」である。両地区には過去にそれぞれ御宿漁業協同組合、岩和田漁業協同組合があったが、2001 年に合併して御宿岩和田漁業協同組合となった。

アラメ・カジメ藻場

房総半島の東岸中部に位置する当地は、太平洋に直接面した外海域にある。沿岸の岩礁域には大規模なアラメ・カジメ藻場（水深 6 ～ 7 mまでがアラメ、それ以深がカジメ）が発達し、磯根資源も豊富である。近年、本邦各地で問題となっている磯焼け現象も見られていない。そこで、活動組織の代表でもある畑中英男組合長と吉野郁夫参事に、藻場の保全を目的とした活動組織を立ち上げられた経緯について聞いた。

当地では、大正期から 1955 年位まではヨード（ヨウ素）を抽出する目的で、鍵棒（かぎぼう）による採集や打ち上げを拾うアラメ・カジメの採藻が盛んに行われ、両地区の間の広い砂浜はその干場として活用されていた。ところが、ヨード（ヨウ素）を多量に含んだ地下水からの抽出が行われるようになって、アラメ・カジメの採藻はその役割を終えた。

ところが、1980 年に 84.5 トンあったアワビの漁獲（素潜り海士の漁獲）が、1987 年に 15.2 トン、1991 年には 5.4 トンにまで激減した。これは採藻をしなくなって、老成した大型のアラメ・カジメだけになったためではないかとの声が漁業者の間から上がり、若い藻体の加入を促進させるための間引きが 1990 年頃から行われるようになった。

今回、これまで実施してきたアラメ・カジメの間引きは、藻場群落の更新に寄与する「藻場の保全」に該

当するのではないかと考え、地元の（公財）海洋生物環境研究所の人達とともに、水産多面的機能発揮対策事業に参加した。

保護区の設定

これまでは場所を特定しないで刈り取っていたが、本事業に参加するに当たって、保護区（例：約 200 m×約 200 m）を設定した。また、無差別に鍵棒（かぎぼう）で船上から取ったり、広範囲を刈り取ったため再生に時間がかかったりしていた。

専門家のアドバイスを受けて、今回は 2 m × 2 m の小区画を複数個刈り取ることによって、間引きした面積や量を特定できるようにして、刈り取った後のアラメなどの再生の状況を把握することにした。

ちなみに、平成 26 年 7 月 19 日に実施した御宿地区の保全活動では、保護区（4ha）の 1/400 の範囲のアラメを間引きし、刈り取ったアラメは全体で約 660 個体、約 1.6 トンであった。保全活動当日は若干波があったが、船で保護区の海域に出ると、水深 3 ～ 5 mの海底にはアラメ藻場が広がり、海底が見えないほどの繁茂状況であった。

間引き作業を終えると、今まで暗がりであったアラメの基部に陽光が射し込み、次世代のアラメの加入が期待できた。

浮遊・堆積物の除去

御宿や岩和田の海岸には、色々なものが漂着する。

御宿地区の 9 月 30 日の保全活動では、小型トラック 7 台分の堆積物をきれいにした。

最後に

20 年以上も前から地元の藻場の保全に取り組んできた人達がいることに感動した。これから実施される次世代のアラメ藻場のモニタリングの成果に期待したい。

～今月のリポーター～

太田　雅隆

運営・技術サポート専門家（藻場、浅場）。長年、海藻類や藻場の調査・研究に従事してきた。藻場の群落構造、遷移、藻場面積の把握方法などに興味を持っている。

文・写真：太田　雅隆

表紙絵・コラム絵：山本　花南

イベント紹介

葉山アマモ協議会　～真名瀬朝市～

10月11日（土曜日）、朝8時、神奈川県葉山町の真名瀬（しんなせ）漁港脇の路上で開催された「真名瀬朝市」を訪ねました。くもり空で風が強く、少し肌寒かったのですが、新鮮な魚を求める多くのお客さんでにぎわっていました。この朝市には「葉山アマモ協議会」も参加し、アナゴやヒトデなどを放したタッチングプールや危険な海洋生物の展示の他、イセエビのさばき方教室などを催しました。活動組織のメンバーである畠山晶さん（写真左手前）の周りには、お年寄りから若い親子連れまで多くの方が集まり、イセエビを捌く、そのあざやかな手つきに視線を注いでいました。この日の朝市は今年4回目の開催。出店や来場者も少しずつ増えているそうですから、いずれは葉山の名所になるかもしれません。今後の活動の広がりが期待されます。

コラム

～葉山の“しらす”～

葉山の沖は、「湘南しらす」の産地として知られています。真名瀬朝市に訪れた時も、漁港脇で釜揚げしたしらすの天日干しの風景が見られました。興味深く見ていると、漁師さんが「食べてみな」とまだ温かいしらすを手の平にのせてくれました！それをほおばった時の幸福感！

しらす漁は3月から12月末までとのこと。葉山に来たら、しらすは要チェックですよ。

公式WEBページ

全国の取り組み情報や、サポート情報、講習会・報告会についての最新情報を掲載しております。

http：//www.hitoumi.jp/

お問い合わせ

全国漁業協同組合連合会　漁政部　関根・草間
電　話：03-3294-9616　FAX：03-3294-3347
E-mail：k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp

全国内水面漁業協同組合連合会　御手洗（みたらい）・吉川
電　話：03-3586-4821　FAX：03-3586-4898
E-mail：n-tamenteki@naisuimen.or.jp

Facebook始めました。「ひとうみnet」で検索できます。